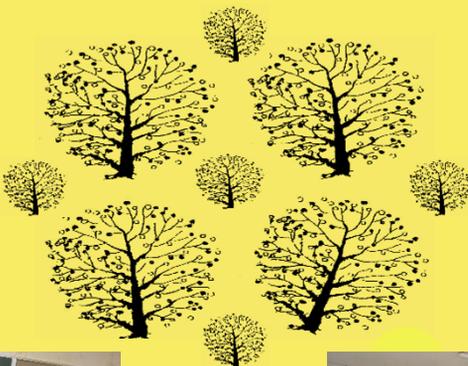


教育のあゆみ No. 45

令和5年度



“令和の子どもたち”の学びの可能性を広げたい！

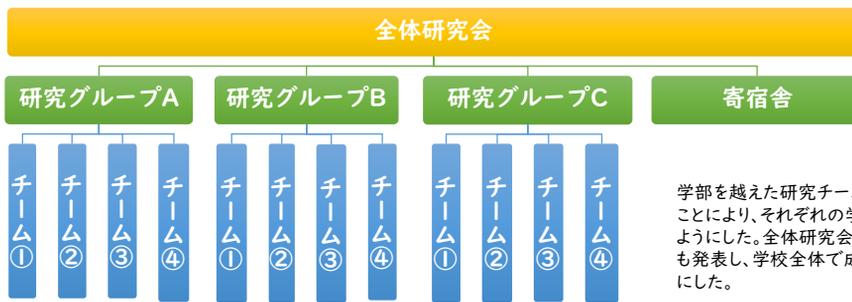
子どもたちの笑顔にあふれ、美しい音楽で彩られたオリジナル映像により、仲間と学んだ日々を一緒に振り返り、「おめでとう」「ありがとう」を伝え合う。このような学部の「卒業を祝う会」等でも、ICT活用が随所に生き、担当生徒たちの手で、あるいは職員がタブレット端末で熱心に制作した「卒業生に贈るふり返り動画」を全校の子どもたちや職員がいつでも何度でも見られるようにと、この時期ならではの学校中の華やかな掲示にQRコード入りのポスターが加わり、お祝いムードも高まります。

「子どもが学びを深めようとする授業づくりⅡ～効果的なICT活用」を研究テーマに掲げ、ICT活用を核とした実践2年目の今年度は、PDCAの「C」を大切に、教科の目標を叶えるためのより効果的なICT活用を視点とした授業改善を重ねてまいりました。子どもたちが日常的にタブレット端末を一つの文房具として活用し、創造力を発揮して生き生きと学ぶ姿を嬉しく思うと同時に、タブレット端末が、意欲を高め、学びの可能性を広げる大切な選択肢・教材の一つとなっていることを実感しています。寄宿舎でも、昨年度末にWi-Fiを整備し、今年度は、Pagesアプリで舎生徒全員分のアルバム作りをとおした研修の機会をもつことができました。これも、ICT支援部の力強いリーダーシップのもと、学部を越えた研究チーム・グループ編成による職員の切磋琢磨によるものと自負しております。

これからも、NEXT GIGAを見越して、ICT環境整備、情報活用能力を計画的に育成しての学習の充実、OJTによる職員研修を一体的に推進し、子どもたちがデジタルシティズンシップを身に付けて学びの可能性を広げ、夢や希望、自立と社会参加につながる力を育めるように努めてまいります。

本リーフレットには、学校研究の概要を掲載しており、QRコードにより、教員の1人1実践等の資料も御覧いただけます。皆様の温かな御支援に心より感謝申し上げますとともに、本校の学校研究に忌憚のない御意見・御指導を賜れば幸いに存じます。

令和6年3月 山形県立新庄養護学校 校長 伊藤 順子



学部を越えた研究チーム・グループを編成することにより、それぞれの学部の良さを伝え合えるようにした。全体研究会では、寄宿舎の取組みも発表し、学校全体で成果等を共有できるようにした。

☆ICTを活用した授業実践の紹介

※QRコードより、以下のすべての実践の授業づくりシートと振り返りシートをご覧ください。
※()内は使用したアプリや機能

① 小学部の実践

- ・国語科 「うごきのことば ようすのことば」(Keynote)
- ・国語科 「おはなしをつくろう」(お絵かきアプリ、Keynote)
- ・算数科 「水の量を比べよう」(Keynote、Pages)
- ・生活科 「校外学習 電車に乗って出かけよう」(Keynote)
- ・生活科 「誕生日会をしよう(タブレットで自己紹介をしよう)」(Keynote)
- ・生活科 「おえかきしよう」(Keynote、アプリ「音のなるお絵描き」)
- ・生活科 「野菜を収穫しよう」(Keynote、カメラ)
- ・生活科 「バスにのってでかけよう」(PowerPoint)
- ・生活科 「フライドポテトをつくろう」(Keynote)
- ・生活科 「花を育てよう」(Keynote)
- ・音楽科 「せいかつのなかで」(Keynote)
- ・自立活動 「あいさつをしよう」(NHK for school、カメラ)
- ・自立活動 「みんなとつながろう」(iMovie、Clips、カメラ)



授業実践(小学部)



② 中学部の実践

- ・国語科 「朗読しよう」(Keynote)
- ・国語科 「わんわんなくのはだあれ」(Keynote、写真)
- ・国語科 「おべんとうは、なあに」(Keynote)
- ・社会科 「ごみの処理と利用」(Keynote、カメラ、QRコード)
- ・数学科 「身近なものを測定しよう」(Keynote、カメラ:マークアップ機能)
- ・数学科 「形を集めよう」(カメラ:マークアップ機能)
- ・数学科 「いろいろな形 なかまあつめをしよう」(Keynote、カメラ)
- ・音楽科 「新養祭で発表しよう」(カメラ、Garage Band)
- ・美術科 「花火師になろう」(Keynote)
- ・保健体育科 「バランスよく歩こう(平均台)」(Keynote:ライブカメラ機能)
- ・職業・家庭科 「寄宿舎について知ろう」(Keynote、Pages)
- ・職業・家庭科 「新養祭で販売しよう(バランスよく伸ばそう)」(カメラ)
- ・外国語科 「あいさつ、気持ち、お礼の言葉 アルファベット」(Keynote、Drop Talk)
- ・特別な教科 道徳 「友情・信頼」(iMovie、Pages)
- ・総合的な学習の時間 「修学旅行の事後学習」(Google Drive、カメラ、QRコード)
- ・自立活動 「活動を理解しよう」(Drop Tap)



授業実践(中学部)



③ 高等部の実践

- ・国語科 「構成を工夫して作文を書こう」(Pages)
- ・社会科 「日本の稲作を学ぼう」(Keynote、Drop Tap)
- ・社会科 「江戸幕府の政策」(Keynote、QRコード)
- ・理科 「メダカを育てよう」(カメラ:マークアップ、拡大機能など)
- ・音楽科 「新養祭(ピアノで伴奏しよう)」(iMovie)
- ・美術科 「年間学習計画を立てよう」(Pages、Keynote)
- ・保健体育科 「飲料水の衛生的管理」(Keynote、クラスルーム)
- ・保健体育科 「舞踊 創作ダンス」(QRコード、Google forms)
- ・保健体育科 「ターゲット・バードゴルフ」(カメラ:スロー)
- ・職業科 「食パンのレシピを作ろう」(Keynote)
- ・職業科 「新養祭 販売会の振り返り」(iMovie、Pages)
- ・家庭科 「食事と健康」(Keynote、Pages)
- ・外国語科 「ランチメニューをつくろう」(Keynote、Google forms)
- ・総合的な探究の時間 「QRコードで紹介しよう」(QRコード、カメラ)
- ・総合的な探究の時間 「修学旅行事後学習」(Google Drive、Pages、QRコード)
- ・自立活動 「一人でトイレへ行こう」(Keynote)
- ・自立活動 「役割を理解しよう」(Drop Tap)



授業実践(高等部)



☆寄宿舎の実践「タブレットに触れてみよう ～生徒と一緒にアルバムを作ってみよう～」

●ICT活用の実態 (R5年度)

- ・R4年度末に寄宿舎棟にネット回線が整備された。
- ・R5年6月からタブレット1台が配置された。
→少しずつ寄宿舎のICT環境が充実してきている。
- ・ICTの操作や活用について不安を抱える職員や初めてタブレットに触れる職員が多い。

●研究の柱

- ①職員が実際にICTに触れ、基本的な操作方法や機能を知る。
- ②タブレットを活用し生徒と一緒にアルバムを作る。
- ③ICT活用場面を増やす。
→職員がICTに慣れることやアルバム作りを通して生徒の実態を知ること、今後のICT利活用につなげていきたい。

寄宿舎の実践



●研究の内容

(1) ICTに触れてみよう

アルバム作りに向け必要となる基本的なICTの操作方法や機能について、舎研修部員が講師になり以下の職員研修を行った。

- ICT活用研修① タブレットに触れてみよう ログインしてみよう
 ICT活用研修②、③ Google Driveの活用(写真のデータをPCからDriveへ、写真のデータをDriveからタブレットへ)
 ICT活用研修④ Pagesを活用し写真のレイアウトを体験してみよう

(2) 生徒と一緒にアルバムを作ってみよう

これまで職員が写真を選びアルバムを作成していたが、タブレットが活用できるようになったことで、生徒自身が自分の好きな写真を選びアルバムに思い出を残せるのではないかと考え、取組みを進めた。まずやってみようという気持ちで挑戦し、アルバム作りをしていく中で、良い方法や疑問点を職員間で共有するなど、学びながらの実践となった。



(3) ICT利活用場面を増やしてみよう

- ・Google Formsを活用したアンケートを実施。アンケート作成や回答の仕方をクラウドで共有。
- ・会議資料等、PCがない職員もタブレットで見られるように活用した。
- ・行事や生活の様子をタブレットでも撮影し、アルバム作りにつなげられるようにした。

●成果 (◎) 課題 (△) 次年度に向けて (☆)

- ◎職員研修を通して操作方法や機能について基礎を理解することができた。資料と照らし合わせながら、モニターで確認できたことで理解しやすかった。操作手順について資料を作成していただいたことで、**時間が経っても資料を手掛かりにしながらか操作できな難かった。**
- ◎アルバム作りで使用したアプリは、初めは苦戦したが**自分で試しながらか触っていくことで徐々に慣れることができた。苦手意識はあっても触ってみることが大事だ**と思った。
- △慣れていないこともあり、作業に時間がかかってしまった。
- △苦手意識をもっている職員が多く、研修しても理解できていない内容も多い。**分かる職員が対応し協力しているが、負担感を軽減したい。**
- ☆タブレットに触れる機会が少ないと忘れてしまうため、今年度のように**基礎的な研修や段階的に進める研修**がありがたい。

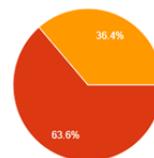
☆目的があると取り組みやすい。表現等を完成させられるまでのスキルを身に付けられるようにしたい。

☆タブレットの**台数が限られているため、PCを含めたICT利活用に取り組んで活用を広げていきたい。**

☆**ICT活用を余暇や生活の中に取り入れ広げてきたい。**生徒と一緒に取組める内容や生徒が主になってできることだと良い。(舎外活動の事前指導、生徒がタブレットで写真を撮り新聞作りをするなど、余暇活動での活用などICTを活用し皆で楽しめるもの。)

「ICTの基本的な操作や機能を知る」についてどうだったか。

11件の回答



☆研究 (2年次) の主な成果 (○) と課題 (▲)、今後の展望 (☆)

- 学部を越えたチーム・グループ編成にしたことで、他学部の各教科での実践やICT活用を学ぶことができた。他の教員の授業から学び、授業に取り入れたり、参考にしたしたりして、全体的にICT活用の幅が広がった。
- 授業実践後の振り返りに重点を置いたことで、PDCAからCAPDサイクルとする視点に基づいて授業を改善することができた。各教科や授業の目標を達成するための一つの手段としてより効果的な活用を考える意識が広まってきている。
- 教員がタブレットを使う場面や手段が広がってきたことで、授業や生活の中で、児童生徒が使う機会が増え、自分に合った検索の方法を選択したり、自分で学習をまとめたりすることができるようになってきた。
- 新しいアプリの使い方や便利な使い方などの研修を行ったことで、タブレットの機能やアプリの使い方の幅を広げることができた。
- 情報活用能力について研修を実施し、昨年度の課題とした情報活用能力を育む学習内容を令和6年度の教科ごとの年間指導計画に位置づけることを検討できた。
- △ICT活用による授業は、「負担感が大きい」「新しい技術が多く大変」という意見もあり、基礎の学び直しの機会を設けるなど工夫したい。
- △自分でタブレットを操作することが難しい児童生徒がどのように使うことが効果的であるのかをさらに考えていく必要がある。
- ☆外部入力支援機器等で活用の幅を広げていきたい。使い方の難しさと、設定や接続が上手いかなかったことが原因として考えられる。今後の研修で、誰でも使うことができるようにマニュアル等の整備を進めていきたい。
- ☆使い方を復習する機会の設定と仕組みづくり、いつでも気軽に聞きやすい雰囲気作りをして負担感や苦手意識を減らしていきたい。
- ☆ICTの効果的な活用や情報活用能力について更に研修を深めていく。今後も情報活用能力の研修を継続して、教員の理解を深め、児童生徒への指導に生かしていきたい。

ICTを活用した授業実践についての考察



教育のあゆみ 第45号

発行日 令和6年3月15日

発行所 山形県立新庄養護学校

住所 〒996-0002
山形県新庄市大字金沢字金沢山
1894番地の4
TEL 0233-22-3042

代表者 校長 伊藤 順子